

第2回福島テックプランングランプリにおいて 企業賞を受賞

7月27日(土)に開催された第2回福島テックプランングランプリ(主催・運営:株式会社リバネス)において、機械工学科長尾光雄教授が発表した『関節音から運動器症候群を予知・予防し健康でアクティブな社会を実現する』が企業賞(菊池製作所賞)を受賞しました。パッション、ビジョン、そしてテクノロジーを併せ持ち、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」ものであり、特に優れているとして評価されました。



工学部にて『じゅうたく小町建築現場 セミナー』開催

11月5日(火)、工学部62号館3階AV講義室にて、ハウスメーカー、専門工事業等約50社が参加する全国低層住宅労務安全協議会主催による、『じゅうたく小町建築現場セミナー“住宅の施工管理とは?”』が開催されました。建築学科の卒業生で、現在スウェーデンハウス株式会社に勤務する壁下瑛里子さんを中心に企画されたもので、ハウスメーカー施工管理者から直接話を聞くことができ、建築学科の学生にとって大変有意義なセミナーとなりました。



郡山市と文化施設の調査研究に関する 連携協定を締結

工学部と郡山市は8月22日(木)に、文化施設の調査研究に関する連携協定を締結しました。締結式は郡山市役所で行われ、出村克宣工学部長と品川萬里市長が協定書に調印しました。本協定の締結に基づき、工学部は、市民を対象に調査を行い、より多面的に施設を評価する研究に取り組みます。また、郡山市は、本学部の調査結果をもとに、施設の改善やサービスなど管理運営の質の向上への取り組みにつなげます。



第62回日本大学工学部学術研究報告会を開催



12月7日(土)、工学部70号館にて『第62回日本大学工学部学術研究報告会』を開催しました。土木工学、建築学、機械工学、電気電子工学、生命応用化学、情報工学、総合教育、教育に関する各部会に分かれて実施。また、一般財団法人ファジィシステム研究所所長(副理事長、研究部長兼務)山川烈氏による『マルチタレント発掘のすすめー若手研究者に捧げるバラードー』と題して特別講演も行われました。「独創性を追求するためには特異的好奇心と多様的好奇心を持つこと」という山川氏のメッセージに、聴講した学生たちも「いろいろなことに関心を持って追求したい」と話していました。

学術文化サークル連合会による 部室棟清掃を実施

9月2日(月)、学術文化サークル連合会(学文連)に所属する各団体の総勢17名の学生が、部室棟清掃を実施しました。この清掃を通じて、参加学生は協調性や主体性を養うとともに、環境美化に対する意識を高めました。



工学部特別番組が放送されました

11月4日(月)に、東北のテレビ朝日系列6局で工学部特別番組『未来へ続くロハス工学』が放送されました。日本大学130周年を記念して制作されたこの番組では、高木美保さん(女優・タレント)と西村和彦さん(俳優)をゲストにお迎えし、出村克宣工学部長がナビゲーターとなつて、工学部が推進するロハス工学の最新の研究について詳しく紹介しました。番組を通してロハス工学の魅力とともに、工学部が復興や地球の未来にどのように貢献しているのかを伝えました。



第12回新☆エネルギーコンテストで 各賞を受賞

日本機械学会技術と社会部門が協力するイベントで、新☆エネルギーの有効な利用方法(冷凍、空調、給湯、調理など)の斬新なアイデアを競う『第12回新☆エネルギーコンテスト』において、機械工学科2年の橋本賢太郎さんが郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議賞を受賞するなど、工学部の学生が数々の賞を受賞しました。

叙勲受章者のご報告

内閣府が発令した令和元年春の叙勲におきまして、本学部関係の以下の方が長年のご功労を認められ受章されましたので、ご紹介させていただきます。謹んでお祝い申し上げます。

【瑞宝小綬章】久保田 幸正氏
元新潟県立長岡工業高等学校長 教育功勞/本学工学部建築学科卒業

大学院進学 の ススメ

その選択が実を結ぶ

CONTENTS

■ 大学院特集

- 大学院進学の特長とは? P1-2
- 大学院の魅力とは!? P3-4
- 社会で活躍する修了者からのメッセージ P5
- 企業が大学院修了者を求める理由 P6
- 経済的サポートも充実 P6
- 令和3年度大学院入試について P6
- 学生活躍 P7-8

■ 研究特集

- シリーズ 新たなる挑戦 P9-10
- 令和元年度科学研究費助成事業交付者 P11
- 令和元年度父母面談会報告 P12
- 台風19号に関する工学部の対応について P13-14
- 工学部だより P15



大学院進学のスズメ

大学院進学のメリットとは？

質が違う 就職率100%

日本大学工学部の2018年度就職率は学部・大学院とも100%でした。しかし、その質には大きな違いがあります。例えば、大手企業の場合、研究開発職は大学院修了者しか採用しないという会社がほとんどです。学部で築いた基礎を応用し、研究をやり遂げるための方法論や問題解決能力を身につける大学院。研究者に限らず、その道のプロを目指すなら、大学院進学は将来を見据えた賢い選択と言えるでしょう。

その選択が
実を結ぶ！



1 経済面でのサポートも充実

2 「ロハス工学」を実践的に学び
高度なロハスエンジニアになる

3 希望の就職をかなえる近道

4 収入の高さと
安定した将来性

進学サポート

成長

就職

将来

GOAL

- TAやチューター制度、工学部第1種奨学金など大学院生対象の奨学金も充実。
- 奨学金の返還免除制度があるのも大学院ならではのメリット。2018年度は申請者36名のうち5名が全額、14名が半額免除(日本学生支援機構第一種奨学金貸与者のみ)。

大学院生の
奨学金利用者は
5割

申請者の
5割強が
返還免除

- 「ロハス工学」を究める最先端の研究を通して、技術者の専門基礎と応用力を身につけられる。
- 所属研究室の主・副指導教員からマンツーマンで丁寧な指導が受けられる。
- 高い問題解決能力、コミュニケーション能力や倫理観を養うことができる。
- 技術者英語Ⅰ及びⅡを導入し英語科目を強化することで、国際舞台で活躍できる英語力を養う。



- 日本大学大学院 工学研究科修了者の高い就職実績。就職率 **100.0%**
- 大手企業の**学校推薦選抜**も大学院生が断然有利。
- 博士後期課程を修了すれば、**大学教員**の道も開ける。

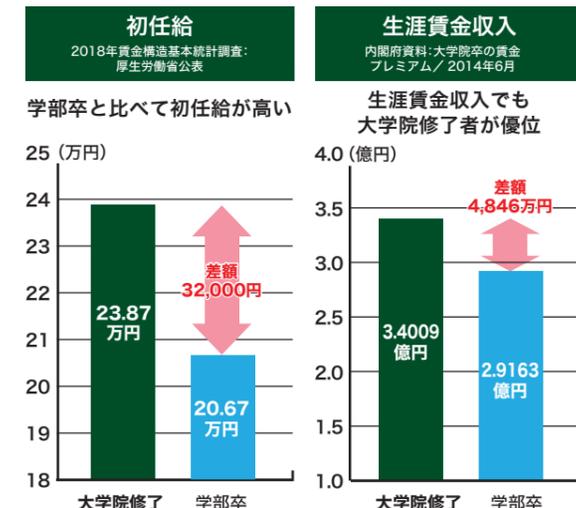
【参考データ】
研究職・技術職採用は大学院修了者の割合が圧倒的に高い

専門的・技術的職種従事者の割合
(内閣府資料:大学院卒の賃金プレミアム/2014年6月)

大学院修了 **64.51%** 学部卒 **24.25%**

初めて就職した会社を離職した割合
(厚生労働省「平成25年若年者雇用実態調査結果の概況」)

大学院修了 **21.8%** 学部卒 **36.6%**



就職最前線

「どこかに行ける」から「行きたいところに行ける」へ

土木工学専攻
環境問題に関する公的研究機関
国立研究開発法人国立環境研究所 **内定**

竹田 稔真さん 国立鶴岡工業高等専門学校出身
現在、洪水災害を軽減する対策として、田んぼガムの研究に取り組んでいます。内定をいただいたのは、共同で研究を進めている国の研究機関です。就職後も研究していることを活かせるのは大きな強みです。研究関連で国内外に出張したり、研究成果を自治体に提供するなどの貴重な経験も活かしていきたいです。

建築学専攻
東京スカイツリーを設計した日本最大手の建築設計事務所
株式会社日建設 **内定**

齋藤 恭平さん 山形県立山形工業高校出身
就職先の選択肢が広がるのは、大学院の魅力の一つ。また、企業と共同研究ができるのも大学院生のメリットであり、就職に結びつく可能性が高くなります。私が内定をいただいたのも、建物火災時の避難対策の共同研究を進めている会社です。研究したことを活かして、様々な仕事に取り組み、安全で安心できる建物の設計に寄与していきたいです。

機械工学専攻
日本のトラック・バス業界最大手
日野自動車株式会社 **内定**

大槻 脩さん 松嶺学園福島高校出身
先進安全自動車の研究が主流となる中で、私たちの研究室では自動車事故発生時の安全性を高める研究に取り組んでおり、希少価値が高く注目されています。2019年学生安全技術デザインコンペティションで最優秀賞を受賞し、日本代表チームとして国際大会にも出場しました。自分の研究について詳細に説明できる点で、大学院生は就活でも有利です。

電気電子工学専攻
日本最大手の無線通信メーカー
日本無線株式会社 **内定**

堀川 裕貴さん 福島県立福島東高校出身
インターンシップに参加し、会社の雰囲気や製品を直に見ることで、この会社に魅力を感じ志望しました。大学院で得た専門知識はもちろん、学部生より長い期間研究に取り組むことから、そこで培われる課題解決に対する取り組み方・考え方が就活での強みになると思います。数多くの学会や研究会で発表し、様々な研究者と意見交換できるのもメリットです。

生命応用化学専攻
化学業界日本最大手のグループ会社
三菱ケミカルエンジニアリング株式会社 **内定**

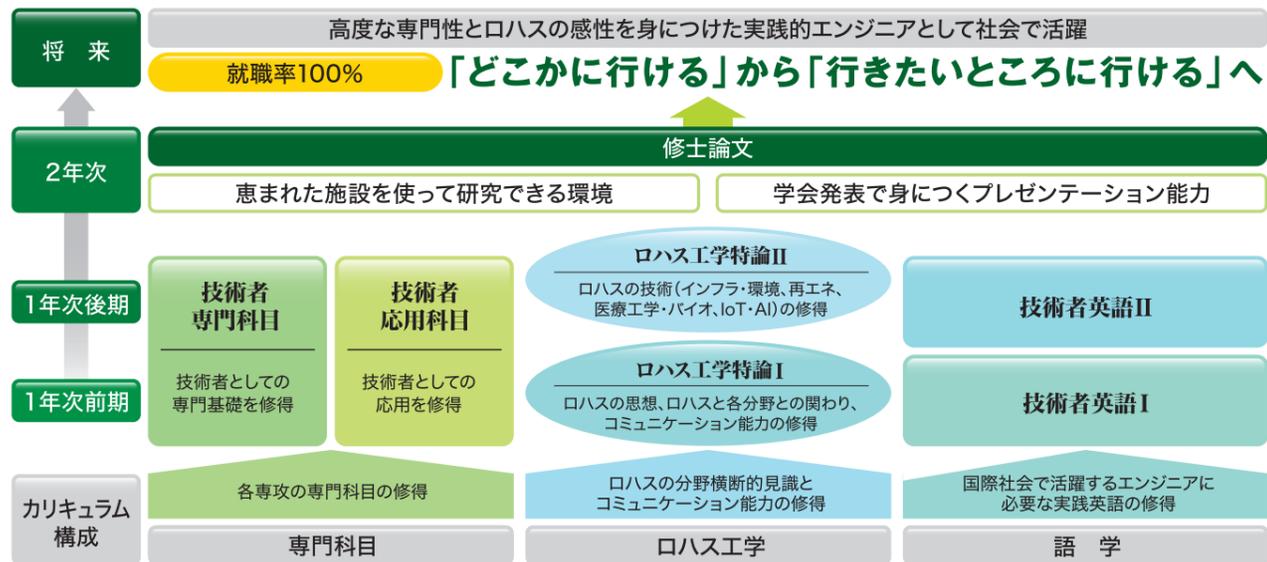
高橋 広大さん 秋田県立横手高校出身
日本の産業を下支えするプラントエンジニアリング業界に興味を持った中で、自分を高く評価していただいた会社への入社を決めました。大学院では、専門的な勉強会や学会への参加を経験することができ、考え抜く力や幅広い視野で物事を考える力を養うことができました。現在は米国のコロラド鉱山大学に留学し、新しい研究に取り組んでいます。

情報工学専攻
日本を代表する総合電機メーカー
日本電気株式会社 **内定**

園原 有紀也さん 長野県伊那北高校出身
研究活動を通じた自己研鑽のために大学院に進学。学校推薦枠を利用して、圧倒的な高技術力を有するとともに、国から発注される大きな案件に携わることができるこの会社を志望しました。相手の質問に対し論理的に答えられる技量は、大学院で身につけた能力。将来はWikipediaに載るような、人々が便利に暮らせるシステムをつくりたいです。

価値の高い学びで ロハス・トップエンジニアを養成

2018年度に改訂された大学院の新たなカリキュラム体制により、「ロハス工学」を実践的に学ぶとともに、高い専門性と人間力を備えた人材を育成します。また、専攻の枠を越えてグループディスカッションや発表を行うことで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養います。これにより、次代の先頭に立って会社をけん引するロハス・トップエンジニアを養成します。

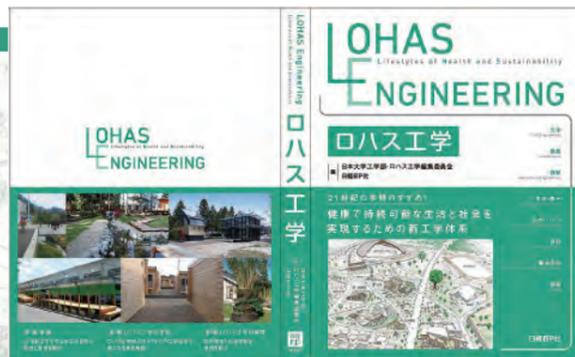


専攻の枠を越えて最先端の研究に触れる 「ロハス工学特論」

日本大学工学部・大学院工学研究科の掲げるロハス工学に関する本質を学ぶ「ロハス工学特論I」は、ロハスの思想と背景、ロハス工学と各分野との関わりを理解し、分野横断的な議論や発表を通して、健康で持続可能な生活と社会を実現するための体系を修得することを目的としています。工学部が独自に発行した教科書「ロハス工学」を教材とし、土木、建築、機械、電気電子、化学・バイオ、情報、農林水産、健康といった分野とロハス工学との関わりについて、各専門分野の教員が講義します。座学だけでなく、グループディスカッションによりロハス工学に基づく論理的な思考力、倫理観、課題解決能力、コミュニケーション力を、発表を通してプレゼンテーション能力

を養います。さらに「ロハス工学特論II」では、ロハス工学が専門分野のみならず関連分野を含む分野横断的な専門知識や考え方の上に成り立つ学問体系であることを学びます。ロハス工学の基幹分野・技術であるインフラ・環境、再生可能エネルギー、医療工学・バイオ、IoT・AIに関する基本概念とこれらの分野に関連する実践例を修得します。

「ロハス工学」という新しい学問体系を学べるのは、全国でも日本大学大学院工学研究科だけです。



土木工学専攻1年 松能直登さん
富山県立富山東高校出身

土木学会主催の講座やセミナーにも参加できる

企画から施工管理までできる建設コンサルタント会社に就職するためには、大学院まで行かないと難しいと考えて進学を決意しました。学部生の時と違って、研究を中心に日々の生活が動いているのを感じます。また、指導教員からマンツーマンで教えていただけるので、より深い知識が身につきます。土木学会主催の講座やセミナーに参加できるのも大学院生の特権。学会発表によってプレゼンテーション能力も高まっています。

建築学専攻1年 武田昌也さん
宮城県古川学園高校出身

自分の能力を高めることで研究を続けることができる

自分の能力を高めたい、もっと専門的な研究をしたいと思い大学院に進学しました。望んだとおり、充実した研究生活を送る中、卒業研究から取り組んできたポラスコンクリートの圧縮性状の解明に関する研究で成果を挙げ、日本コンクリート工学会の年次大会2019(札幌)で論文奨励賞を受賞しました。また、卒研生の指導、論文の執筆や学会発表を通して、自分自身成長できていると思います。さらにスキルアップを目指していきます。

機械工学専攻1年 北川健太さん
福井県立羽水高校出身

語学留学や国際学会での研究発表は貴重な経験

技術職の中でも、研究・開発の仕事をするためのスキルを身につけたかったので大学院に進みました。日本大学工学部奨学金(第1種)の給付のおかげで、フィリピンへの語学留学を経験することができ、国際学会でこれまでの研究成果を英語で発表する機会にも恵まれました。また、授業補助を行うTAは、学部生に説明しながらコミュニケーション力の向上や講義の復習にもなるので有用な制度だと思います。

電気電子工学専攻1年 岩瀬詩帆海さん
宮城県古川学園高校出身

奨学金の返還免除制度があるのは大学院生のメリット

将来やりたいことから就職先を探すと、大学院修了を条件とする企業がほとんどでした。また、先々を見据え、大学院で高い専門性を身につければ、一旦休職しても復帰できると考えました。希望の道をかねるため、目指す業界のインターンシップにも積極的に参加しています。日本学生支援機構第一種奨学金は、学会への参加や論文提出、ボランティア活動などの業績によって返還免除になるので、大学院生にとって大きなメリットです。

生命応用化学専攻1年 安田京磨さん
長野県野沢北高校出身

他学科の教授陣の授業が受けられるのも魅力

大学生活の中で、理系の学生が一番面白いと感じるのは研究です。1年だけでは物足りない、もっと研究したいという思いから大学院進学を決めました。研究だけでなく、ロハス工学特論の授業で他学科の教授陣の講義が受けられるのも魅力です。違う視点から化学を見ることで、化学への理解がより深まります。また、一つの組織である研究室という集団の中でどう行動すべきかも学べました。将来は、研究開発職に就きたいと考えています。

情報工学専攻1年 伊藤真さん
松嶺学園福島高校出身

博士後期課程への進学を目指し先例のない研究テーマに挑戦

大学院進学理由は、純粋に研究が面白くて、このまま続けたいと思ったからです。博士後期課程への進学も視野に入れ、ネットワークの経路制御に関する先例のない新規の研究テーマに挑戦しています。博士前期課程修了までに論文を2件以上発表することが現在の目標です。元々教員を目指していたので、研究室やTA、演習室アルバイト等、後輩たちをサポートすることも楽しいです。責任ある仕事や活動ができるのもモチベーションにつながっています。

社会で活躍する 修了者からのメッセージ

INTERVIEW
01

2015年3月
土木工学専攻博士前期課程修了
皆川 翔平さん

技術職

INTERVIEW
02

2017年3月
機械工学専攻博士前期課程修了
相澤 由香利さん

開発職

INTERVIEW
03

2010年3月
電気電子工学専攻博士前期課程修了
生田目 大輔さん

技術職

**株式会社
ネクスコ・エンジニアリング東北**

インフラの維持管理に関わる
仕事を通して
社会貢献を目指していきたい

大学院ではコンクリート工学研究室に所属し、コンクリート構造や材料に関する様々な専門知識や、社会インフラの維持管理の重要性を学びました。大学院1年次に、現職の会社を含むNEXCO東日本グループのインターンシップに参加し、高速道路の社会的な重要性を実感したことから、それらを建設、維持管理する仕事に従事し社会貢献したいと考えました。現在、主に高速道路のリニューアル工事に関わる道路橋床版の調査業務や、橋梁の維持管理に資する点検、調査、評価技術の研究に従事しています。以前に携わった床版取替工事の施工管理業務を含め、大学院で培った知識が直接仕事に役立っています。さらに、大学院では、物事を論理的に考える力、物事に粘り強く取り組む力、研究発表を通して相手に的確に物事を伝える能力が身につきましたが、これらは仕事を進める上で必要なスキルです。より深い専門知識や社会人としての力を養えるのが、大学院の魅力と言えます。また、卒業後早い段階でコンクリート診断士、コンクリート主任技士、コンクリート構造診断士の資格を取得することができました。大学院進学は就職へのアドバンテージ、技術者としての強みを持つことにもつながります。これからもインフラの維持管理に関わる仕事を通して、社会貢献を目指していきたいと思っております。

日本精機株式会社

考える力を必要とする開発分野で
常に先を見据え新しいことに
挑戦し続ける

ものづくりが好きで機械工学の道に進みましたが、学部生の就活の時期になっても、どの分野に興味があるのか掴めずにいました。「将来自分が何をやりたいのか納得いくまで考えたい」と思い大学院に進学。当時、日本人がノーベル賞を受賞したことが話題となり、研究職に憧れを持ったのも理由にあります。研究職・開発職に就くためには学部卒では難しかったので、大学院進学は必然だったと思います。それが功を奏し、地元就職の希望もかなって、車載用計器事業、コンポーネント事業等を世界で展開する新潟県の会社に就職し、開発職に就くことができました。自動車のメーターを設計する部署に配属となり3年目。世の中にないものをつくりだすのが開発の仕事ですが、世に出た時には、すでに新しいことに挑戦しているというように、常に先のことを考えなければなりません。教授の指示に従うことが多かった学部生とは違い、大学院ではまずは自分で考えて問題解決に取り組んでいました。そうした考える力が身についたことは大きな収穫であり、新しいものを生み出すための大切な基礎になっています。自分が何をしたいのかわからない人は、少しでも興味のあることを追求してみてください。大学院進学がその答えを導き出す鍵になると思います。

東北電力株式会社

電気に関する専門的な知識と
研究で培った経験を活かして
課題解決に取り組む

学部生の時、研究を通して課題に取り組みながら、アプローチの仕方や解決方法を学ぶことが面白くて、もっと勉強したくなり大学院に進学しました。元々、幅広い分野への就職が可能な電気電子工学分野で、さらに大学院修了者となれば、益々選択肢も広がります。大手企業の推薦枠がある中で、地元である東北に寄与したいという思いから、この会社を志望。その強い気持ちと電気に関する専門的な知識を身につけていることが決め手となり、採用となりました。現在は、配電部門でお客様と身近に接することができる仕事に携わっています。住宅や大型店舗を建てる際の電力供給のほか、強風や災害などで停電した時、いち早く復旧させることが私たちの役目です。課題を解決していくプロセスは、研究で培った経験が活かされています。この仕事のやりがいは、お客様からの「ありがとう」の言葉です。これからも東北の活性化や経済的発展に貢献できるよう、電気を安全供給するための技術を究めたいと考えています。大学院で受けた教育は一生自分の財産として残ります。視野を広げたい、自らを高めたいと考えるなら、大局的に見ても大学院進学は大きなメリットになるでしょう。

企業が 大学院修了者を 求める理由

高い専門性と特出したスキルによって即戦力として活躍できる

当社は臨床検査試薬や検体検査装置などの開発から製造・販売・カスタマーサポートまで行う会社です。様々な開発部門がある中で、私は現在、血液検査の新しい分析機器の開発に携わっています。他の大学院修了者を見ても、特出したスキルや専門知識を活かして、開発分野でその力を発揮したり、指導者としてチームをまとめたり、海外に派遣されるなど幅広く活躍しています。企業が大学院修了者を求める最大の理由は、即戦力になる点が挙げられます。社会人としての基礎力が備わっていることはもちろん、大学院修了者は様々な能力において高いスキルを持っており、採用する企業にとっても魅力的な人材です。自分で調べて新たな知識を得て、次の課題に取り組むといった、研究活動を通して培われた探究心、思考力、判断力、問題解決能力は、研究開発分野においては重要な資質であり、卒研究生や研究チームを取りまとめる指導力やマネジメント能力も、大学院生だからこそ身につけられるスキルと言えるでしょう。

私自身の経験からも、学生の皆さんには是非とも大学院に進学してほしいと切に願います。そこでは、学部時代にはない得難い経験ができるからです。さらにチャンスがあるなら、海外派遣奨学生制度を利用して、異国での生活を体験してほしいと思います。私は工業化学専攻から初めてこの制度を利用し、米国のミシガン州立大学に研究生として留学しました。当時、就職氷河期と言われる時代において、女性の就職はさらに厳しい状況でしたが、海外経験も強調材料となり開発職での採用を勝ち取ることができました。貴重な海外の経験は、自分の人生の可能性を広げる大きな財産となりました。経済的な不安もあるとは思いますが、今は奨学金制度も充実しています。何より、大学院での様々な学びは、その後の人生を有益なものにしてくれるでしょう。分野を問わず、専門性を有する技術者、研究者が求められています。大学院でその力を身につけ、社会で大いに活躍されることを期待しています。



開発職 株式会社エイアンドティー
小田原 紫野氏
1999年3月
工業化学専攻(現生命応用化学専攻)
博士前期課程修了

大学院での学びをバックアップする経済的サポートも充実

奨学金制度

奨学金は、学業成績・人物ともに優秀かつ健康であって、将来、学術研究者または上級技術者となる者の養成のため、学費を貸与あるいは給付するものです。

奨学金名称	金額	
日本大学工学部第1種奨学金	年額60万円給付	
日本大学大学院工学研究科特別奨学生	年額40万円給付	
日本大学古田奨学金	年額20万円給付	
日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金	年額20万円給付	
日本学生支援機構 第一種奨学金	博士前期(無利子)	月額5/8.8万円から選択貸与
	博士後期(無利子)	月額8/12.2万円から選択貸与
日本学生支援機構 第二種奨学金(有利子)	月額5/8/10/13/15万円から選択貸与	

奨学金に関するお問い合わせは、学生課(TEL.024-956-8633)まで

支援制度

チューター
下級生への研究・学修上の補助や、学部生(1・2年生)に対する学部基礎科目の学修支援を行い、年額約20万円が支給されます。

工学部ティーチング・アシスタント(TA)
工学部の実習授業の指導補助業務等にあたり、博士前期課程のTAは業務の時間数に応じて一定の金額が、博士後期課程のTAは月額5万円(年額60万円)が支給されます。

大学院生の学協会での発表に伴う交通費の補助
学協会等の開催地までの往復交通費(郡山駅を起点とし、公共の交通機関を利用)に対して、年度内1回、5万円を上限に交通費を補助します。

大学院海外派遣奨学生
海外派遣期間は1年間で、奨学金180万円(年度により若干異なる)を上限として給付します。

申請者の5割割が免除
特に優れた業績による返還免除制度(日本学生支援機構第一種奨学金貸与者)

令和3年度 大学院入試について(予定)

大学院は2年間の博士前期課程と3年間の博士後期課程に分かれており、学部からは博士前期課程に、博士前期課程からは博士後期課程に進学できます。

学内・研究科内選考推薦入学試験
令和2年 7月上旬予定

博士前期課程
【出願資格】 受験年度の3月までに日本大学工学部卒業見込者で学業成績優秀な者、取得単位数が108単位以上であること
【試験内容】 書類審査及び口述試問

博士後期課程
【出願資格】 受験年度の3月までに日本大学大学院工学研究科博士前期課程修了見込者で学業成績優秀な者
【試験内容】 書類審査及び口述試問

(第1期)一般選考
令和2年 9月下旬予定

博士前期課程
【出願資格】 大学を卒業または受験年度の3月までに卒業見込の者
【試験内容】 筆記試験(専門科目、英語)及び口述試問

博士後期課程
【出願資格】 博士前期課程を修了または受験年度の3月までに修了見込の者
【試験内容】 筆記試験(英語)及び口述試問

(第2期)一般選考
令和3年 2月中旬予定

博士前期課程
【出願資格】 大学を卒業または受験年度の3月までに卒業見込の者
【試験内容】 筆記試験(専門科目、英語)及び口述試問

博士後期課程
【出願資格】 博士前期課程を修了または受験年度の3月までに修了見込の者
【試験内容】 筆記試験(英語)及び口述試問

※以上の記載内容は令和元年12月時点のものであり、予告なく変更になる場合があります。

お問い合わせ **日本大学工学部 教務課**
TEL. 024-956-8621 FAX. 024-956-8888 E-mail: gsnnyushi@ao.ce.nihon-u.ac.jp

※詳しくは工学部ホームページをご覧ください。

学生の活躍

様々な分野で活躍する学生

たちを紹介します。



建築学専攻博士前期課程1年
武田 昌也さん

1 コンクリート工学年次大会2019において「年次論文奨励賞」を受賞

公益社団法人日本コンクリート工学会主催『コンクリート工学年次大会2019(札幌)』において、建築学専攻博士前期課程1年の武田昌也さん(建築材料学研究室:出村克宣教授、齋藤俊克准教授)が『第41回コンクリート工学会講演会年次論文奨励賞』を受賞しました。この賞は、若手(40歳未満)研究者を対象として、論文および講演内容が優れている者に与えられる賞です。武田さんが発表した『普通コンクリートの各種弾性係数推定式のポーラスコンクリートへの適用』は、現在、齋藤准教授が採択されている科学研究費助成事業基盤研究(C)の一環として継続されています。

2 第2回材料科学コロキウムにおいて最優秀発表賞を受賞

一般社団法人日本材料科学会主催『第2回北海道・東北支部材料科学コロキウム』において、生命応用化学専攻博士前期課程1年の田代敦也さん(無機材料化学研究室:上野俊吉教授)が最優秀発表賞を受賞しました。本コロキウムは学生の研究発表後、教員が学生に質問して議論を戦わせるものです。教員と学生による投票で優秀な発表を行った学生を1名選出した結果、『超急凝固法によって作製される酸化物共晶皮膜の組織形成』を発表した田代さんが最も多くの投票数を獲得し、最優秀発表賞に輝きました。



生命応用化学専攻博士前期課程1年
田代 敦也さん

3 第23回JIA東北建築学生賞において奨励賞(みやぎ建設総合センター賞)を受賞

公益社団法人日本建築家協会東北支部主催『第23回JIA東北建築学生賞』の公開審査において、建築学科4年の澤島優さん(建築計画研究室:浦部智義教授)の作品『生彩を放つ蕎麦』が奨励賞(みやぎ建設総合センター賞)を受賞しました。応募作品の中から選ばれた41作品が公開審査に進み、コンセプトの導き方、社会性・歴史性、空間性・造形力、表現力の4項目に加え、学生として将来の可能性に期待できる観点などを基準に審査が行われました。審査員の講評後行われた投票は僅差の争いでしたが、澤島さんの作品は4番目の支持を受け奨励賞に選ばれました。



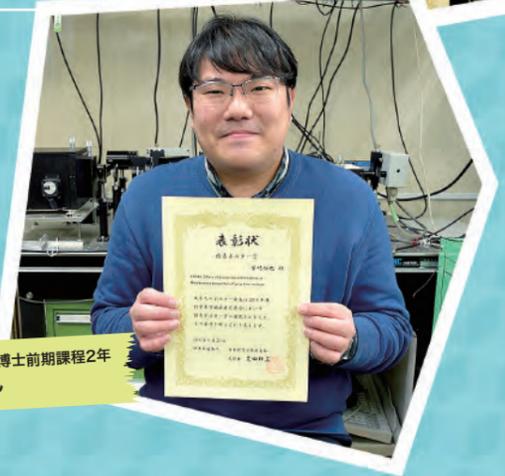
建築学科4年
澤島 優さん

4 2019年度化学系学協会東北大会において優秀ポスター賞を受賞

公益社団法人日本化学会東北支部2019年度化学系学協会東北大会(山形大会)において、生命応用化学専攻博士前期課程1年の安田京磨さん(生体材料工学研究室:石原務教授)が発表した『ポリ乳酸をブレンドした脂質ナノ粒子の開発』が高分子/繊維化学分野で、同2年の柴崎裕也さん(光エネルギー変換研究室:加藤隆二教授)が発表した『Effect of deuterium substitution on fluorescence properties of perylene excimer』が物理化学分野で優秀ポスター賞を受賞しました。



生命応用化学専攻博士前期課程1年
安田 京磨さん



生命応用化学専攻博士前期課程2年
柴崎 裕也さん



生命応用化学専攻博士前期課程1年
福島 未彩さん

5 2019年光化学討論会において優秀学生発表賞を受賞

2019年光化学討論会(光化学協会主催)において、生命応用化学専攻博士前期課程1年の福島未彩さん(光エネルギー変換研究室:加藤隆二教授)が優秀学生発表賞を受賞しました。本会では光化学全般を討論の主題として、約300件のポスター発表があり、そのうち9件が優秀学生発表賞に選ばれました。福島さんは『様々なマトリックス中のテトラセンが示す室温遅延蛍光:高い励起状態からのフィッシュンによる三重項励起子生成』で受賞しました。

6 第70回東北地区大学体育大会団体戦で硬式庭球部が優勝

工学部体育会に所属する硬式庭球部が、第70回東北地区大学体育大会団体戦で、見事優勝を果たしました。現在3部リーグの硬式庭球部ですが、決勝では長年東北地区1部リーグの王座に君臨する東北大学を相手に、大金星をあげる“ジャイアント・キリング”を成し遂げ、優勝をもち取りました。夏休み明け早々に行われた令和元年度東北地区王座3部リーグの試合では3戦全勝し、2部リーグの入れ替え戦にも勝利。念願の2部昇格が確定しました。



硬式庭球部のみなさん

シリーズ 新たな挑戦



9月20日(金)、日本大学工学部と福島ロボットテストフィールドとの連携協定締結を記念し、『ふくしま発 ドローンによる橋梁点検の実用化を目指して』と題したシンポジウムを開催しました。工学部では2018年度に福島県の『産学連携ロボット研究開発支援事業』の採択を受けて以来、福島県内企業との連携の下、ドローンを用いた橋梁点検・診断に関する技術開発を進めてきました。2019年度からは、福島ロボットテストフィールド(以下、RTF)を活用し、さらなる技術開発を進める予定です。そこで、工学部とRTFは今後密接に連携していくことで双方にとって多大な利益を生み、ここで開発された技術は福島から広く国内外へ展開することが期待されることから、連携協定を締結することとなりました。さらに、本研究プロジェクトの中間報告会を兼ねて、連携協定締結記念シンポジウムを開催しました。

TOPICS

日本大学工学部と 福島ロボットテストフィールドとの 連携協定締結記念シンポジウムを開催

1 社会のインフラ長寿命化と 人材育成に寄与することを 目的に連携を深める

この連携協定は、これまで工学部が福島県内の企業と進めてきたドローンを用いた橋梁点検・診断に関する技術開発について、RTFとの連携・協力を図ることにより、社会のインフラ長寿命化に関する研究開発及び人材育成並びに福島イノベーション・コースト構想の推進に寄与することを目的としています。代表者挨拶では、出村克宣工学部長(写真左)が「ロボットテストフィールドの実際の橋を使って実証実験が行えることで、開発のスピードがあがると同時にドローンなどの機器を使う人材育成にもつながる。福島発で全国に展開していきたい」と決意を述べました。福島ロボットテストフィールドの鈴木真二所長(写真右)も、「工学部と協定を結ぶことで、連携を通じた活用の道を拓き、新たな技術を社会に還元できる」と期待を寄せていました。その後、出村学部長と鈴木所長が協定書に署名を行い、協定を交わしました。



2 有用な情報提供と意見交換により ドローンによる橋梁点検への 期待も高まる

62号館(ハットNE)3階大講堂に会場を移して行われた記念シンポジウム『ふくしま発 ドローンによる橋梁点検の実用化を目指して』には、県内外の企業や研究機関、工学部の教職員・学生など多くの参加者が集まりました。まず、出村学部長が連携協定締結の経緯・概要等について説明し、鈴木所長にはRTFについてご紹介いただきました。国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部木村嘉富部長による基調講演『国土強靱化とドローンへの期待』では、国立研究法国土木研究所構造物メンテナンス研究センター(CAESAR)で取り組んでいる橋梁等の臨床研究事例をあげていただきました。また、インフラ管理技術の開発(SIP)点検要領策定の新技術利用のガイドライン、新技術の性能カタログについても説明され、「技術は千差万別であり、どの技術を、どの部位の、どの損傷に、どのような目的で使うかを明確にすることが重要」とご教示いただきました。

続いて、工学部のプロジェクトである『ドローンを活用した省人化・効率化を目指す橋梁点検システムに関する研究開発事業』の中間報告を行いました。はじめに、プロジェクトリーダーの土木工学科岩城一郎教授が事業の全体概要について説明。本事業は橋梁技術者により容易に近接目視点



検できない部位を対象に、ドローンを用いて安全かつ効率的に精緻な画像を取得し、AI等を活用して橋梁専門技術者の診断に資する有用な情報を提供することを目的としています。さらに、『点検手法の妥当性検討・検証』等5つの研究テーマについて、具体的な研究状況を報告しました。次に、福島県土木部土木企画課地地利光課長にドローン等無人航空機の活用事例について、また、陸奥テックコンサルタント株式会社技術部小室浩部長と株式会社アルサ代表取締役鹿又将征社長に、実橋での活用事例について話題提供いただきました。

3 パネルディスカッション 「ふくしま発ドローンによる 橋梁点検の実用化を目指して」

最後に講演者の方々にパネリストにお迎えして、パネルディスカッションを行いました。産学官の立場からプロジェクトへの様々な意見が出される中で、コーディネーターの福島県商工労働部ロボット推進室北島明文室長は、「分野の違う研究者が垣根を越えて融合していることが本プロジェクトの意義でもある」と評されました。ドローンの橋梁点検を普及させていくために、岩城教授は「何の目的でドローンを使ってどういう情報を得るかを明確にし、それに対応する性能をどこまで求めるかが大事」とし、北島室長も「受注者・発注者が厳しい意見を戦わせて、残ったものが将来的に生き残っていくのではないかと示唆しながら、本研究プロジェクトへの期待を込めて激励されました。福島ロボットテストフィールドとの連携により、ドローンプロジェクトの社会実装に向けての研究開発が加速的に進むことは間違いないでしょう。産学官連携によって福島発の技術を世界に発信できることを願っています。



令和元年度
科学研究費助成事業交付者

平成30年度の科学研究費助成金及び委託研究費、研究奨励寄付金の総額は324,087,973円でした。今年度、工学部では以下の研究が科学研究費助成事業に採択されました。

研究種目	学科	資格	代表者氏名	研究課題名	今年度交付額(円)		研究期間(年度)	
					直接経費	間接経費		
基盤研究(B)	機械	教授	西本 哲也	交通事故で一番多い歩行者事故死者を救命するための自動車安全システムの研究	5,100,000	1,530,000	H30-R2	
	土木	教授	仙頭 紀明	非液化化層の影響に着目した液化化による時間遅れ破壊の再現	1,500,000	450,000	R1-R3	
	土木	教授	中野 和典	堆積物微生物燃料電池の害虫抑制機構及び金属溶離機構の解明と応用	900,000	270,000	R1-R3	
	土木	准教授	朝岡 良浩	エルニーニョ気候擾乱による熱帯水河の応答が水資源の持続性に及ぼす影響評価	800,000	240,000	H29-R1	
	土木	准教授	子田 康弘	道路橋RC床版における水の侵入に起因した耐疲労性の低下を抑制する床版断面の提案	400,000	120,000	H29-R1	
	建築	教授	浦部 智義	福島県内の木造仮設住宅の撤去・集約化と利活用に関する研究	600,000	180,000	H29-R1	
	建築	准教授	齋藤 俊克	広範な空隙率を持つ性能設計対応型ボースコンクリートの静弾性係数推定法の提案	1,800,000	540,000	R1-R3	
	建築	専任講師	山田 義文	医療的ケアを必要とする重度肢体不自由者の地域居住生活継続に資する居場所作りの研究	900,000	270,000	R1-R3	
	機械	教授	片岡 則之	3次元培養モデルを用いた細胞血管浸潤の実時間観察とガン転移の生体力学的検討	900,000	270,000	H29-R1	
	機械	教授	長尾 光雄	下肢バランス信号の解析による変形性膝関節症の早期診断方法の開発	100,000	30,000	H29-R1	
	機械	教授	彭 國義	気泡流被覆水中サスペンション・ジェット脈動特性の解明および通気槽の最適化	1,000,000	300,000	H29-R1	
	機械	教授	武藤 伸洋	人間の運動センシングを導入した医療機器操作教授法の確立	1,200,000	360,000	H30-R2	
	機械	准教授	杉浦 隆次	結晶方位解析を活用した微視損傷形成モデルの構築とその応用	500,000	150,000	H29-R1	
	機械	准教授	ブラムディタ・ジョナス	桃骨遠位端骨折の生体力学的要因の解明に向けた統合的研究	700,000	210,000	H29-R1	
	機械	准教授	下権谷 祐児	脳動脈瘤破裂の血行力学的危険因子の同定	800,000	240,000	R1-R3	
	電気電子	教授	高田 聡	オープンリーニングによる登山ヒヤリハットからの実践知の発掘と共有	800,000	240,000	H29-R1	
	電気電子	教授	石川 博康	実環境下における無人航空機を用いたユース位置検出手法に関する研究	1,500,000	450,000	R1-R3	
	電気電子	准教授	高梨 宏之	集団歩行者の確率的行動予測モデルに基づく危険度評価	1,000,000	300,000	H30-R2	
	電気電子	准教授	西田 豪	数値解に基づく非線形分布定数系の最適境界制御設計法	800,000	240,000	H30-R2	
	電気電子	准教授	村山 嘉延	透明帯(ZP)複屈折の定量イメージングによる未受精卵の品質診断	900,000	270,000	H30-R2	
電気電子	准教授	四方 潤一	二重共鳴型テラヘルツ波共振器を用いた超高分解3次元テラヘルツイメージングの研究	1,300,000	390,000	R1-R3		
基盤研究(C)	生命応用	教授	石原 務	レシチンの化学修飾による体内分布を制御した改良型バイオ医薬(バイオベクター)の開発	1,100,000	330,000	H29-R1	
	生命応用	教授	根本 修克	フタロシアニン複合体の焼成による革新的な固体高分子型燃料電池空気極用触媒の創製	1,000,000	300,000	H30-R2	
	生命応用	准教授	児玉 大輔	プロトン性イオン液体を利用した二酸化炭素/炭化水素分離回収プロセスの構築	1,300,000	390,000	R1-R3	
	生命応用	准教授	齋藤 義雄	幅の狭いDNA副溝における分子のねじれを利用した蛍光ベクトル核酸プローブの開発	1,200,000	360,000	R1-R3	
	生命応用	教授	春木 満	RNase Hを利用したmRNAの増幅的検出法の開発と薬剤スクリーニングへの応用	1,200,000	360,000	H29-R1	
	生命応用	准教授	山岸 賢司	RNAアプタマーの分子認識メカニズムの解明	900,000	270,000	H30-R2	
	情報	教授	源田 浩一	激甚災害からの設備復旧順序に着目した効率的な通信ネットワーク復旧方法	500,000	150,000	H29-R1	
	情報	教授	松村 哲哉	実時間画像センシング向け超低遅延動画符号化圧縮方式に関する研究	800,000	240,000	H29-R1	
	情報	准教授	関澤 俊弦	組み合わせテストを応用した組み込みシステムの検証項目生成の研究	800,000	240,000	H29-R1	
	情報	准教授	中村 和樹	東南極における氷河流動と海氷動態との相互作用の理解と十年規模変動の解明	500,000	150,000	H30-R2	
	情報	准教授	溝口 知広	地上における広葉樹の効率的資源調査を実現するハード/ソフトウェアの開発	700,000	210,000	H30-R2	
	情報	准教授	宮村 倫司	バランス領域分割法と双対基底ラグランジュ乗数法によるアセンブリ構造解析	500,000	150,000	H28-R1	
	総合教育	教授	川嶋 正士	「5文型の祖型」の英語教育史的研究	500,000	150,000	H29-R1	
	総合教育	准教授	赤石 恵一	札幌農学校1~5期生の漢文学習の実態とそれが英語熟達度に与えた影響と要因の解明	800,000	240,000	R1-R5	
	生命応用	准教授	平野 展孝	代謝経路全体を区画化する合成生物学ツールの開発	1,800,000	540,000	R1-R3	
	若手研究(A)	電気電子	准教授	高橋 竜太	金属と酸化物のナノコンポジット結晶を用いた革新的な水分解光電極の創製	4,600,000	1,380,000	H29-R1
		建築	専任講師	山岸 吉弘	近代建築生産史における「大工棟梁」の組織と技術に関する研究	400,000	120,000	H29-R1
	若手研究(B)	機械	専任講師	遠藤 央	ワイヤのたるみモデルを用いた懸垂型パラレルワイヤ機構の動的制御手法の開発	400,000	120,000	H29-R1
総合教育		助教	佐久間 智央	他者効力感を用いたチームパフォーマンスの予測に関する研究	600,000	180,000	R1-R2	
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化A)	機械	准教授	ブラムディタ・ジョナス	動的荷重に対するヒト手首の力学応答に関する実験的研究	12,000,000	3,600,000	R1-R3	
	土木	助教	前島 拓	積雪寒冷地に適した高耐久コンクリート舗装の開発と耐久性評価手法の構築	1,100,000	330,000	R1-R2	
研究活動スタート支援	電気電子	専任講師	石川 瑞恵	界面制御技術による耐性能SiSピンMOSFETの創製	1,100,000	330,000	R1-R2	
	生命応用	特別研究員(DC1)	吉田 尚恵	計算化学を用いたRNAアプタマーデザイン評価手法の確立	900,000	0	H29-R1	
特別研究員奨励費	機械	教授	彭 國義	水中アベレシブ・ジェットの流動構造と切削特性に関する研究	900,000	0	H30-R1	
	合計	採択件数合計45件			新規小計	28,600,000	8,580,000	
合計	内訳			継続小計	30,500,000	8,610,000		
	新規代表15件 継続代表30件			合計	59,100,000	17,190,000		

は新規採択者



令和元年度父母面談会を開催しました
ご父母の相談に教員が個別に対応
工学部ならではのサポートで教育の充実を図る

工学部ではご父母との連携を深め、より一層、教育の充実を図るために、ご子女に係わる各種ご相談や工学部に対するご意見ご要望等をうかがう個別面談を年1回開催しております。昨年度までは工学部父母会が主催し、各支部の総会後に行われていた支部父母懇談会ですが、本年度父母会に代わり後援会が発足したことにより、工学部主催による父母面談会を実施することとなりました。9月7日(土)・8日(日)に各地方都市20会場で、14日(土)には工学部キャンパスにて開催。全会場で1,000名を超えるご父母の方々にご参加いただきました。

MEETING REPORT

学生生活や就職についての
詳しい情報も提供

各地方会場では教員による工学部の概要・現況報告のほか、地元出身の在学生や卒業生による講演を行い、実際の大学生活や就職についての体験を語っていただきました。また、工学部キャンパスで行われた面談会では、



▲ 郡山会場では学科ごとに教育内容や就職状況についての説明会を実施。



▲ 教員が個別の相談に対応。同席した学生にも懇切丁寧に指導。

70号館を会場に各学科に分かれて教育内容や就職状況について説明を行いました。面談会はこれまでと同様に、ご父母と教員が膝を交えながら、学生一人ひとりの授業の出欠や履修状況を確認し、今後の学修の進め方をアドバイスしたり、就職や大学院進学など進路についての相談に応えました。工学部のサポート体制についても理解を深めていただく良い機会になりました。

ご父母の方からは、「親身に応えてもらったので大変よかった」、「心配していた成績や進路について詳しく聞いて安心した」、「工学部はしっかりサポートしてくれている」といった声をいただきました。これからも学生一人ひとりと向き合いながら、ご子女がより有意義な大学生活を送れるようサポートしてまいります。

この場をお借りしまして、ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

台風19号に関する工学部の対応について

様々なご支援をいただき、ありがとうございました

令和元年10月12日に通過した台風19号により、被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。工学部におきましても、河川の氾濫によりキャンパス内に浸水被害が発生し、安全衛生の確保及び復旧に努めるため、しばらくの間、休講及び事務窓口業務を休業といたしました。その間、教職員のみならず、学生諸君の努力、そして地域の皆様方、卒業生の方々と並びに関係各位には様々な形でのご支援をいただきました。改めて御礼申し上げます。約3週間の期間を要しましたが、学生及び教職員等の健康被害防止を目的として環境調査を実施した結果、すべての項目において環境基準に適合しており、環境衛生上問題がないことから、11月5日より授業を再開いたしました。おかげさまで、現在、学生諸君は元気に勉学に励んでおります。

また、工学部では、今回の被害の拡大を受け、水害のメカニズムの解明や効果的な対策を提言する『キャンパス強靱化プロジェクト』を立ち上げました。郡山市等行政の全面的なご支援をいただきながら、プロジェクトを進めてまいります。学生諸君はもちろんのこと、地域の皆様方の命を守ることを最大の目的とし、成果を還元していく所存です。これからも工学部へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

工学部長 出村 克宣



▲キャンパス浸水の様子

『キャンパス強靱化プロジェクト』始動！

本プロジェクトは、土木工学科岩城一郎教授をリーダーとし、土木工学科、建築学科、情報工学科の教員と郡山市の担当職員16名で構成されており、キャンパス周辺の田村町と安積町を対象に2か年計画で調査・研究を進めていきます。11月14日には、連携する郡山市とミーティングを行い、「現象把握・メカニズム解明」と「住環境・避難行動」の2つのタスクフォースを発足。まずは、浸水被害が拡大した要因の解明を目指します。

メンバーの一人、情報工学科中村和樹准教授は、浸水メカニズム解明に必要なキャンパス周辺の詳細な標高分布図の作成に取り組んでいます。大量の航空写真を重ね合わせて処理した画像やドローン(UAV:無人航空機)の測量データから地形や建物の高低差を数センチ単位で割り出します。作成した標高分布図をもとに、水の流れ込んだ速さや溜まりやすい場所をシミュレーションし、浸水の影響を受けやすい場所を視覚的に認知できる地図を構築。学生らの避難行動の聞き取り調査の結果を踏まえ、避難所の安全性や最善の避難ルートを探ります。最終的には、どのような行動をとるべきかを検討し、命を守るための災害対策へとつなげていくことが目標です。キャンパス周辺に留まらず、他地域にも応用可能な防災・減災モデルを作るとともに、研究成果を教育にも役立てて、防災意識の高い学生の育成を目指します。

なお、本プロジェクトでは、令和2年3月14日に学生や市民に向けた報告会を開催する予定です。



▲キャンパス分布図1



▲キャンパス分布図2

ご支援いただいた皆様へ

台風19号による災害に際し、多くの皆さまから温かいご支援をいただいております。

ご協力いただいた支援金は、令和元年12月25日現在、約14,240,000円となりました。いただきました支援金は、床上浸水した被災学生の修学援助のための「災害奨学金」として使用させていただきます。本学部及び本学部被災学生にご支援賜りましたことを心より御礼申し上げます。ご支援をいただいた方々のご協力に感謝し、ご芳名を本誌に掲載させていただきます。

企業・個人		教員		職員	
(株)アイクリン	日本体育施設(株)	岩城 一郎	植竹 大輔	山田 朋生	酒井 泰志
アカデミア・コンソーシアムふくしま	日本大学経済学部	金山 進	川嶋 正士	梅村 順	伊藤 智夫
(株)秋田銀行 郡山南支店	日本大学工学部校友会	仙頭 紀明	今野 達夫	佐藤 洋一	佐藤 裕之
阿部測量(株)	日本大学工学部校友会北海道支部	中野 和典	齊藤 浩一	市岡 綾子	阿部 昭彦
(株)アルサ	日本大学工学部第二回卒業生学科合同同級会	中村 晋	菅原 潤	日比野 巧	添田 喜彦
伊藤 彰	日本大学工科系校友会宮城県支部	堀井 雅史	中野 浩一	堀川 真之	小田島 美通
岩田地崎建設(株)	日本大学校友会福島県支部	渡邊 英彦	野田 工	宮崎 渉	高橋 史典
(株)うすい百貨店	日本大学校友会宮城県支部	浅里 和茂	棟方 克夫	山岸 吉弘	大和田 恭成
(株)エディソン	日本大学国際関係学部	浦部 智義	和田 耕治	山田 義文	今津 正人
(株)エフコム	(株)日本大学事業部	ガン ブンタラ	朝岡 良浩	遠藤 央	小野 信太郎
(株)エルフ・エージェンシー	日本大学商学部	サンジェイ バリーク	笠野 英行	小熊 靖之	小林 正志
大塚製菓(株) 仙台支店	日本大学第一学園	千葉 正裕	子田 康弘	田中 三郎	真船 守人
(株)オリエントコーポレーション	日本大学第三学園	出村 克宣	知野 泰明	石川 瑞恵	大岡 敦
(株)加賀田組	日本大学第二学園	濱田 幸雄	手塚 公裕	道山 哲幸	相場 順一
柿崎 隆夫	日本大学文理学部	速水 清孝	齋藤 俊克	小林 以弦	桑原 学
(株)環境緑建	日本大学三島高等学校	廣田 篤彦	野内 英治	佐藤 公俊	杵淵 吉幸
紀尚堂(株)	日本大学理工学部	森山 修治	伊藤 耕祐	金子 正人	工藤 祐二
北野建設(株)	日本調理技術専門学校	渡部 和生	岡部 宏	田中 宏卓	佐久間 誠剛
KNTフードサービス(株)	(株)日本旅行	片岡 則之	下権谷 祐児	見越 大樹	安食 貞則
県南バスケットボール協会	根本 源太郎	齋藤 明德	杉浦 隆次	小林 鉄雄	佐久間 真一
弘栄設備工業(株)	(株)野田商店	佐々木 直栄	フラムディタ ジョナス	樋口 幸治郎	猪山 勝弘
郡山相撲協会	日出学園	田村 賢一	四方 潤一	前島 拓	林 修
(株)郡山測量設計社	ファーストコーポレーション(株)	長尾 光雄	田井 秀一	市川 司	小野寺 隆幸
郡山ビューホテル(株)	フィールド計測(株)	西本 哲也	高梨 宏之	佐久間 智央	高山 太志
菜根歯科クリニック	福島イノベーション・コスト構想推進機構	橋本 純	高橋 竜太	野崎 真代	要田 恵久子
櫻護謨(株)	(株)福島映像サービス	彭 國義	西田 豪	古河 美喜子	齋藤 義高
札幌日本大学学園	福島県私立中学高等学校協会	武藤 伸洋	羽田野 剛司	渡邊 祥正	菅井 正一
(有)佐藤林業	福島県卓球協会	池田 正則	村山 嘉延	南 尊雄	村上 進之介
シダックスコントラクトフードサービス(株)	福島市役所後援会	石川 博康	内野 智裕	渡邊 弘幸	大平 里美
昭和アステック(株)	(株)福島中央テレビ	遠藤 拓	児玉 大輔		渡部 イミ
(株)泰・伊藤設計	福島テレビ(株)	高田 聡	小林 厚志		間 友恵
(株)関	(株)福島放送	千葉 玲一	齋藤 義雄		澤井 直樹
全国警備保障(株)	福島ミドリ安全(株)	渡邊 博之	平野 展孝		下重 紗弥佳
仙台デザインワークス(株)	福島民報社	入谷 隆一	山岸 賢司		真壁 直也
相鉄アカシヤ会	福島民友新聞社	石原 務	大山 勝徳		佐藤 丹明子
大成建設(株)	フジタビルメンテナンス(株)	上野 俊吉	関澤 俊哉		矢代 家康
大成設備(株)	(株)ベスコ	奥山 克彦	中村 和樹		佐藤 貴士
太平ビルサービス(株) 郡山支店	(株)星総合印刷	加藤 隆二	溝口 知広		中田 真寛
高橋 佑太	本多 隆	岸 努	宮村 倫司		秦 雅
宝化成機(株)	マグナ通信工業(株)	佐藤 健二	和泉 勇治		飯塚 生
武田 裕幸	マルチテグループ	田中 裕之	赤石 恵一		越川 龍
地崎道路(株)	丸三株式会社	玉井 康文	荒木田 英禎		横田 大輔
(株)中央工研	三ツ井 直紀	沼田 靖	上野 俊一		濱田 大輝
(株)ツガワ	宮崎日本大学学園	根本 修克	乙藤 隆史		中嶋 剛志
土山 一夫	八木 宏純	春木 満	川崎 和基		安田 弘恵
角川学園 専門学校花壇自動車大学校	陽光ビルサービス(株)	岩井 俊哉	金 里美		関根 修司
(株)東京ドームホテル	(株)横河建築設計事務所	上田 清志	齊藤 伸		市原 孝行
東北テント(株)	吉岡 裕樹	加瀬 正	神馬 洋司		高橋 秀子
中村 玄正	(有)和田印刷	源田 浩一	鈴木 京子		渡邊 英子
ナショナルペンディング(株)	渡邊 和美	杉山 安洋	中島 唯仁		笹森 るみ子
(株)七尾商会	渡辺建設(株)	西園 敏弘	中津山 英子		吉田 翔
(株)ナルセ 郡山営業所	渡邊 三郎	松村 哲哉	宮田 公治		伊藤 充
新田 勝雄	若林 裕之	森 英嗣			

※順不同、敬称略

上記以外の方からもご支援いただいておりますことを申し添えます。